



持ち寄って働く、寄り合って暮らす。
それぞれの『私たち』に拓かれた社会へ。

〒810-0022 福岡市中央区薬院2丁目16番14-502号
Email : info@aka-tsuki.org Web : <http://aka-tsuki.org/>
 <https://www.facebook.com/npo.akatsuki>

*本年年次報告書の作成にはアカツキフェロー（正会員）の小島理絵さんにご協力いただきました。

年次報告書

ANNUAL REPORT

2014

NPO法人アカツキ
AKATSUKI

持ち寄って働く、寄り合って暮らす。 それぞれの『私たち』に拓かれた社会へ。

アカツキが目指すのは、これまで私たちがお金に置き換えてきた価値、例えば、人々が持ち寄り協力して働くことや、寄り合い支え合って暮らすことを取り戻していくことで描かれる、ゆるやかで関係性の豊かな社会です。「みんな一緒」でも、「私だけ」でもない、様々な『私たち』があちらこちらに存在し、互いに認め合いながら、また一方で互いの要望をはっきり伝え、合意を形成しながら、拓かれた多様性の中でともに生きてゆける社会を目指します。

ミッション 1

参加と協力の仕組みを育てる

お金をビジョン実現の手段と捉える「非営利性」を活かし、信頼と共感により寄付やボランティアを集めていくことは、人々の社会参画と協力関係を促進し、市民の主体性や社会を変える力を高めます。アカツキはこの「参加と協力の仕組み」を育てます。

ミッション 2

試されない関係性を広げる

アカツキは、肩書きや収入、能力、容姿など、大小様々な評価、そして「あなたは何者であるか」という問いにさらされることのない、ありのままでいられる場所や空間をつくり、そこで生まれる「試されない関係性」を社会へと広げていきます。

アカツキの約束



ロゴの形には「いびつながらも互いに寄り添い、向き合い、そして決して独りにしない」という姿勢を、そしてロゴの色には「拓かれた明るい社会を迎える前の、夜明け前の最も暗い時間(=暁)を担いたい」というメッセージを込めています。アカツキと関わるあなたにとっての『最初の希望』となり、未来を見つめながら、いまと真摯に向き合うことを約束します。

息苦しさの正体は

日本社会における息苦しさ—。それは人と人が協力し合う仕組みが弱ってしまったことにあるのではないかと考えます。画一的で統制的なムラ社会から、自由を求めた個人主義へと転換するなかで、時間もお金も、そして仲間もない、社会の中に居場所のない人たちが、少しずつ増えています。自分さえよければ暮らしを守れた時代は終わった今、どんな社会が必要とされているのでしょうか。



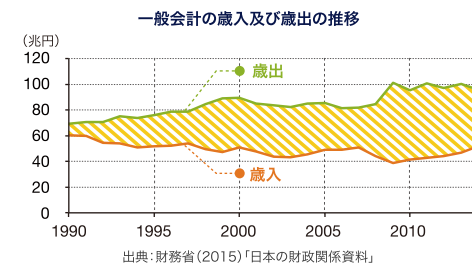
私から、私たちへ

今から17年前、市民の働きかけにより、日本社会において画期的な「NPO法」が産声をあげました。誰もが自分の意志や問題意識を社会に発信し、形にしていける仕組みであり、「私」から仲間を集め「私たち」となり、寄付者やボランティアを募ることで、「私たち」そのものを広げていける制度です。私たちは一部のリーダーや行政に依存することなく、自分たちで新しい社会を想像し、創造できるのです。



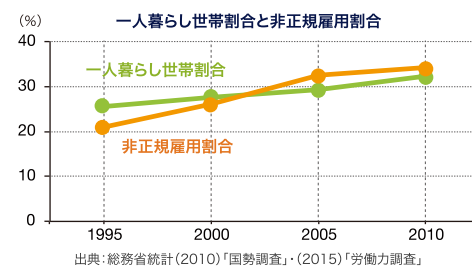
崩壊するセーフティネット

近年、「課題先進国」とも表現される日本において、社会課題は多様化・複雑化しています。一方で、国の歳出に対して、歳入の4割は将来世代への借金で賄われており、地域や暮らしを守るセーフティネットが少しずつ崩壊しつつあります。これまでのように行政による公的サービスだけで維持することは厳しいのが現状です。



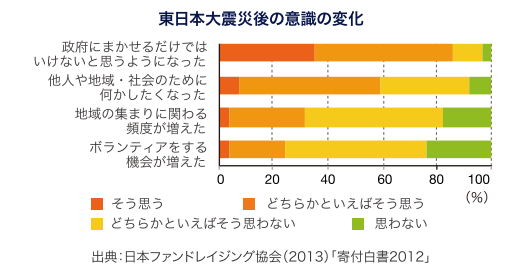
コミュニティから孤立する人たち

非正規雇用の増加や長時間労働の常態化により、職場や地域のコミュニティから孤立する人たちが増え続けています。平成22年には、一人暮らし世帯と非正規雇用の割合はともに30%を超え、3人に1人が家族に頼りにくい生活環境や先行き不透明な仕事環境におり、これらの環境がますます社会的孤立に拍車をかけています。



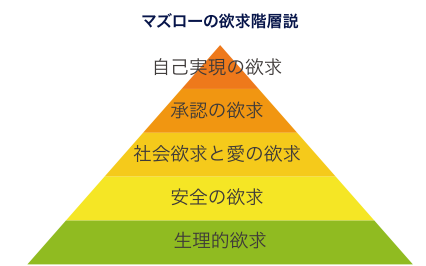
NPOと寄付文化の成長

複雑化する社会課題を解決するには、市民が自ら主体的に取り組んでいくしかありません。東日本大震災後、社会貢献意識が高まったものの、「地域の集まりに関わる頻度が増えた」など、実際に行動が変化した人はわずか30%程度に留まります。信頼されるNPOが育ち、寄付という社会参画の機会を市民に提案し、文化や市場を育てていく必要があります。



持ち寄る、寄り合う場づくり

心理学で有名な「マズローの欲求階層説」では、人間がただ生きるだけではなく、高次の欲求として居場所や役割を必要とすると語られています。これからの社会には、経済的豊かさとは異なる価値観、例えば、時間、技術、知識など、一人ひとりが自分のできることを持ち寄り、また寄り合い、つながることのできる場所や機会が求められています。



様々な形でご支援頂いたみなさまに 理事一同、心よりお礼申し上げます

働いていて最も豊かな瞬間は、時間をかけて対話と議論を重ねる中で、当初はそこにいる誰もが思い描けなかった、新しい解決策が『私たち(We)』という主語から拓けてくるということ。そしてそれを信じて根気強く待てる、相手(You)を受け入れられる自分(I)になっていくという実感です。「大切なことには時間がかかる」アカツキを信じ見守ってくださる支援者のみなさんに感謝します。

NPOベンチャーとして3年目も無事に終えました。ビジョン・ミッションとして掲げていることが、事業を通じて多くの団体と関わりを持つなかで、団体の方にも徐々に実存化されていく手応えを感じています。そのためにはまず、アカツキの内側がそれを体現できているのが肝心なのですが、それができているのは多くのご支援くださるみなさまがいてくださるからこそ。心より感謝申し上げます。

設立から3年間、多くの諸先輩方とお仕事をするなかで、変化を受け止める姿勢に出会いました。1人、1団体では決して描くことのできないビジョンに対して、多様な方と対話し、同じ方向を向き、時に対立し、影響を与え合う。そうして、生まれる大きな変化を通して、『私たち』が広がっていく様子に、多くの気づきと学びを頂きました。これからもともにビジョンを描く『私たち』の1人として、どうぞよろしくお願いいたします。

時間が経つにつれて支援者や関係者の方の思いや支えを実感しています。平成26年度は経営基盤となる事業計画書の作成を中心に携わりました。根気強く話し合い分かり合えたことは、私にとっても貴重な時間でした。少しずつですが理想を具体化する一歩になりました。また、みなさんと直接お会いできた総会はとても楽しく今でも大切な思い出です！今後もわいわい活動していきますのでお願いします！

私が持ち寄るものよりも、私以外の誰かが持ち寄ってくださるものがいっぱい集まって、アカツキがどんどん豊かになっていっている。フェロー、支援者、ビジネスパートナー、様々な方が関わってくださるなかで、そんな印象を受けた1年でした。今後も理事として「それぞれの私たち」を大切に団体経営を行い、これからもみなさんの最初の希望として、誠実な仕事とわくわく感を提供してまいります。

平成26年度からアカツキに参画することとなり、そのなかで一番感じることは「対話」をできる環境があることの有難さです。私は自分の思いや考えを話すのが苦手なのですが、理事として関わるようになってから「対話」することの意義を実感しております。アカツキに関わるみなさんとも、価値観を共有し対話できる関係づくりをしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

代表理事
永田 賢介
じん



📍 りらくま/いぬ
/ねこ/布団/二度寝
/風呂/米/味噌
/黄色/井上涼
/ラジオ配信/甘々と稲妻/島田雅彦

副代表理事
佐々木 悠史
ゆうじ



📍 写真/光描/パ
ティスリー/現代宇宙論
/LP700-4/ハービー・山口/ト
マ・ピケティ/福山雅治
/trip

理事・事務局長
松島 拓
たくみん



📍 トレイルランニング
/海外旅/スペイン語
/旅/毛布/菊/浅瀬
/胡桃/栗/Kygo/JekK
/Sienna Skies

理事
高柳 希
のんちゃん



📍 ディスカッション
/愛とは/ソクラテス
/コインゲーム/クラシック
/寝続ける/走る/考える
/お寿司

理事
原口 ゆい
ゆいゆい



📍 安部コウセイ/牛肉
/動物占い/シンガポール
/プレイディみかこ/人をダメ
にするソファ/宮崎夏次系
/紅茶

理事
外山 幸
おゆき



📍 苺/フレンチトースト
/珈琲/デザイン/アート
/カメラ/読書/ギター/ピアノ
/tricot/Nirvana/歌う

学びと経験を培った1年でした

フェロー(正会員)をはじめ、サポーター会員や協働団体の方々などアカツキを様々な形で支え、参画・支援いただいたみなさまに、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。平成26年度は、ファンドレイジング・コンサルティング事業の商品開発と、講座及びWebサイト制作事業を中心とした収入改善を目標とし、事業を推進してきました。福岡県「認定取得促進事業」や福岡市主催「草莽塾in福岡」を通じ、これまでに積み上げた独自のフレームワークやノウハウに加えて、多くの実践事例を学ぶことができました。さらに北九州と佐賀におけるファンドレイジング研修を受注し、講座事業を中心に本

年度の収入目標を達成。事務局においては、仮認定取得を目標に、経理や法務といった事務局体制の整備を行い、より安定した組織基盤を築くことができました。一方で、目標としていた事業モデル構築・検証は十分に実施することができず、また事業の体系化や福岡におけるファンドレイジング事例の蓄積、寄付収入の向上などの課題まだまだ残っています。みなさんとともに、『私たち』に拓かれた社会の実現を目指し、これらの課題を1つずつ解決し、一步一步前に前進していきます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

気持ちよく働ける、休める事務局を目指して

経理担当のオカン黒田です。平成26年度もみなさまに伴走いただきながら無事に終えることができました。本当にありがとうございました。事務局では週に一度ミーティングを行い、各事業の進捗状況や現時点での立ち位置などを職員全員で確認し、共有することができました。また、経理業務においても、経費精算方法の見直しを行い、伝票入力を溜めこまないように心がけることで、月次の予実管理を可能にしました。月に一度、開催している理事会への報告もしやすくなった一年でした。一方、オカンとしては職員の健康管理が今後の最重要課題で

す。きちんとご飯は食べているのか、睡眠はとれているのかなど、日々の何気ない会話やコミュニケーションを潤滑油にし、事務局運営をスムーズにしていきたい。たとえ、思春期の子どものように面倒くさがられてもしつこく声をかけていきます。また、職員一人ひとりが気持ちよく休める、そして気持ちよく働ける環境づくりを今まで以上に意識し、私たち職員自らが試されない関係性を築いていける事務局を目指します。どうか引き続きご支援よろしくお願ひします。



職員
黒田 美穂
くろろん

AKATSUKI 2014

1年を時系列で振り返り!



4月

NPO法人入門講座 (基礎編・運営編) スタート

NPO法人ドネルモ・会員制度設計サポート

ソムニード対話型ファシリテーション講座@福岡 協力

東京・佐賀・福岡のファンドレイジング現場 / 最新知見をシェアするギャザリング! 開催

北九州市立大学非常勤講師に就任

北九州市立大学法学部政策科学科長・植原真二先生からのご依頼があり、代表理事・永田が学部・大学院の非常勤講師として、NPOや社会起業の授業を行うことになりました。



理事夏合宿 実施



たくさんの人の信頼と共感を集める! ~認定NPO法人取得サポートセミナー 開催



草莽塾in福岡 2014 スタート



休眠預金活用促進に向けた全国キャラバン@福岡 協力

平成25年度の事業内容と成果をまとめたアニュアルレポート2013を公開!



第二回フェロー(正会員)の会@東京 開催



福岡で「認定NPO法人制度」のゆくえを考える勉強・意見交換会 協力



平成26年度通常総会&トークイベント 開催



菊田まづくりカレッジ「NPO・ボランティア組織のあり方と運営」講師登壇

経営会議がスタートしました!

会社経営者でもある理事・高柳と松島を中心に、理事夏合宿から、中期経営計画の策定を始めました。約半年間の議論を経て、長期経営方針とともに、平成27年1月に完成しました。



設立2周年記念パーティ 開催



NPOかばんもち 受け入れ



佐賀・北九州ファンドレイジング研修 スタート



『私たち』から社会を描く~韓国の市民活動・協働視察プロジェクト 開催



研修にイベントに、盛りだくさんな1年間になりました!



NPOマーケティング・フォーラム in 福岡 2014 開催



エスタスカーサ対話の場づくり スタート



地方共助社会づくり懇談会in福岡 登壇



北九州ファンドレイジング専門家派遣



「共働笑点」~NPOと福岡市の「オモロイ」プレゼン&対話の場~開催



《NPOのためのマーケティング講座・長浜洋二著》出版記念イベント@福岡 開催

認定個別支援がスタートしました

6団体に対して認定取得のための個別支援を実施しました。



SROI(社会的投資利益率)勉強会 開催

ソルト・バヤタス基盤整備事業

Panasonic基盤整備事業により、1年間にわたるプロジェクトが始まりました。中期経営計画の策定から当期事業計画の見直し、業務改善、ファンドレイジング施策などの取り組みを実施しています。



福岡NPO新年会 開催



ファンドレイジング・日本2015セッション/クロージング登壇



認定NPO法人取得検討セミナーinパレア(熊本県) 講師登壇



九州自然歩道フォーラムWebサイト制作

OUR・NEXT 2015

これからもまだまだ続きます!

コンサルティング事業

コンサルティング事業では、ミッションの一つ『参加と協力の仕組みを育てる』ことを目的に、NPOを対象に「ファンドレイジング(資金調達)」を中心としたハンズオン支援を行っています。特に個人からの寄付と会費に特化し、単に寄付収入の手段とするのではなく、NPOにとって、向き合う社会課題や目指す未来に対して共感してもらい、参画する「仲間」を増やす、本質的な取り組みだと位置づけています。



寄り添う、丁寧な伴走型支援

欧米では「ファンドレイザー」と呼ばれる職業が存在し、フリーランスで働く人や専門の担当者を設置する組織もあります。一方、平成23年度に実施された福岡県『NPO法人の資金調達に関する調査報告書』によれば、県内のNPO法人約1600団体のうち、寄付収入が0円、寄付募集を行っていない法人が50%を超えます。

このような現状のなかで、平成26年度は10団体に対して、ファンドレイジング・コンサルティングを実施しました。これらの現場では単にアドバイスや指導を行うのではなく、ともに知恵を絞り、汗をかいて実務に取り組む「ハンズオン(伴走型)」

という姿勢を大切にしています。そして、ITツールやプレゼンテーションなどの方法論に傾倒せず、職員へのヒアリングや理事会への同席など丁寧なコミュニケーションを基礎に、ビジョンの共有や支援者ヒアリング、そして業務フロー改善といった地道で確実な取り組みを行っています。



【アカツキのファンドレイジング・コンサルティングの実施フロー】
「組織・戦略・戦術」の段階に応じて、施策の決定から成果の評価までを行っています。

PICK UP! 認定取得促進事業

平成25年度に引き続き、福岡県「認定取得促進事業」を受託し、認定NPO法人の取得を目指す6団体に対して、約6ヶ月にわたる個別支援を実施しました。特に平成26年度は、福岡県の担当職員と認定NPO法人制度に知見のある末吉税理士と連携し、団体の個別状況やニーズに合わせた柔軟な専門的支援を提供することができ、2団体が仮認定を申請するという成果につながりました。また、NPOがクラウドファンディングを活用するための知見をまとめた3冊の冊子(基礎編・応用編・事例編)を制作し、公開しました。

協働団体の声

諦めず、丁寧に対話を続けることで、メンバーの参加と協力が引き出されました。

私たちはこれまで、理事や職員の間で課題意識と目標を十分に共有できていませんでした。アカツキのファシリテーションにより、丁寧に対話を続けることで、全員の参加と協力がうまく引き出され、改めて良いメンバーに恵まれていると実感しています。無難なところで諦めず、根気強く付き合い、こちらの状況に合わせて、業務分析や中期経営計画などのツールを作り、より使いやすく改訂し続けてくれる姿勢から、熱意と地道な努力が伝わり、そしてそれは理事や職員にも波及したと思います。

1月から一緒にいるPanasonic組織基盤整備事業は、まだ3合目くらいでしょうか。いよいよ辛い坂の始まりかもしれませんが、ファンドレイジング施策を検討し、ともに目に見える成果と目標を実現できることを期待しています。



小川 恵美子 さん

NPO法人ソルト・パヤタス
事務局長

平成27年度の事業方針

これまでの3年間にコンサルティングの現場で培った経験と、積み上げてきたフレームワークとノウハウを体系化し、「ファンドレイジング・スクール(仮)」と連動した、中長期的なコンサルティング・プログラムを開始します。また、団体内部では、知見の共有化を進め、特定の担当者に依らない、安定した品質のコンサルティングを提供できるよう整備する一方で、ファシリテーションや写真撮影など、職員個人の能力や個性を活かしたサービスも提供します。

コンサルティング事例

1 精神障がい者の居場所づくり なおみの会

精神障がいの理解と支援者拡大を兼ねた施策を目的に、関係者分析をまずは最も近い正会員(家族会)の参画意欲を高めるべく、対話で想いを共有する場を提案・実施しました。



2 ひとり親家庭の学習支援 エデュケーションエキューブ

既存寄付者の継続率向上を目的に、活動報告書のストーリーや台割の設計、掲載内容の検討、活用シーンの特定を行い、活動の趣旨と内容が分かりやすく伝わる報告書が完成しました。



3 社会起業家の資金・経営支援 WIA(World In Asia)

財団法人設立を目的としたクラウドファンディングで、リターン設計から支援検討者向け説明会イベントの設計まで一貫して支援し、目標額300万円を超える350万円を達成しました。



人材育成・コミュニティ構築事業

人材育成・コミュニティ構築事業では、これからの市民社会や非営利組織の運営を担う実務者を育てるために、研修やセミナー等を通して、NPO法人やファンドレイジングの基礎知識と知見や事例の共有を行っています。また、ミッションの一つ『試されない関係性を広げる』ことを目的に、コレクティブスペース「エンガワ」を運営し、参加者と食卓をとる「エンガワの夕げ」を開催しています。

本質と、小さな改善策を伝える研修

研修やセミナーにおいて、いくら成功事例や方法論を聞いても、すぐに成果につながることはありません。そこで、私たちはNPOやファンドレイジングが持つ価値と意味に焦点を当てることや、具体的な事例紹介やワークを活用すること、現場ですぐに取り組みの小さな改善策を伝えることを重視し、本質的な理解のもと、現場で変化を起こせる実務者を育てています。また、同一団体からチームでの参加を推奨したり、講義と講義の合間に宿題を設けたりと、団体のメンバーで同じ認識や新しい気付きを共有することで、内部での振り返りや実行を促す工夫をしています。

特に、ファンドレイジング研修では、人が寄付をする動機を、「GOOD(いいね)とLIKE(すき)」や「共感(右脳)と納得(左脳)」といった簡単なフレームワークで整理した、小規模団体が潜在支援者を掘り起こすための手法を解説しています。この手法は、東京で1200人以上が参加した「ファンドレイジング・日本 2015」でも紹介し、好評を博しました。



PICK UP! エンガワの夕げ

『成長しなくてもいい場所、交流しなくてもいい場所。』をコンセプトに、訪れる人が肩書きや能力、容姿などで評価されず、ゆるやかに関係性を紡ぐコレクティブスペース「エンガワ」を福岡市中央区薬院で運営しています。金曜日の夜に開催している「エンガワの夕げ」は、ご飯と味噌汁、簡単なおかずを一緒につくり、食べ、片付けるだけのイベントです。テーマとなる話題や取り組むべき活動はありません。人がただ集い関わることそのものが目的であり、こうした『試されない関係性を広げる』ことが、私たちのミッションの一つです。

エンガワの夕げ 参加者の声

初対面の人がいっても安心できる、「私は私でいいんだ」と思える場所

気心の知れたボランティアの仲間や敬愛する研究室の先生のもとで学生生活を送った福岡から、就職で北九州へ。周囲の人間関係がガラリと変わりました。社会に出ると、自分の価値観や考え方はマイノリティなのだと感じることが多く、それがストレスになることもありました。「エンガワの夕げ」は初対面の人がいっても安心できる雰囲気があります。他の参加者と一緒にいるけれど、個人として尊重もされていて、「私は私でいいんだ」と思えます。あとは、例えば「それはできません」と言っても、誰からも怒られないとか(笑) 日常の中で「嫌だな」とか「辛いな」と思うことがあっても、自分でも何が原因なのかよくわからなくてモヤモヤしている人は、エンガワに来ると少し気持ちラクになるかもしれません。



稲月 ひかり さん

北九州市役所

平成27年度の事業方針

調査研究事業で実施した韓国視察を通して得られた、希望製作所が実施する「募金学校」のカリキュラムを参考に、私たちがこれまでの3年間で行ってきた研修やセミナーを統合し、現場実習も含めて体系化した「ファンドレイジング・スクール(仮)」を立ち上げます。また、コレクティブスペース「エンガワ」の運営においては、エンガワの夕げの開催頻度が下がっていることを課題とし、今後の実施形態と運営体制を見直します。

研修・講師登壇等事例

1 NPO法人入門講座 講師登壇

「設立後に後悔しないために」をキーワードに、福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」と協働で、NPO法人設立の意義や必要性の検討ができる講座を実施しました。



2 北九州ファンドレイジング研修 専門家派遣

北九州市民活動サポートセンターとの協働により、ワークを中心とした連続研修を実施し、15団体約30名が参加。その後、3団体を対象に実践のフォローアップを行いました。



3 草莽塾in福岡 事務局・塾生コミュニティ運営

長浜洋二さんを講師に、福岡市主催で実施された、基礎知識の習得から実践までを行うNPO向けマーケティング研修「草莽塾in福岡」で、事務局と塾生コミュニティ運営を担いました。



調査研究事業

調査研究事業では、国内外を問わず、NPOや市民活動の最新事例、中間支援組織の役割を学び、市民セクターのニーズ、現状と傾向を把握するとともに、コンサルティング事業及び人材育成・コミュニティ構築事業のサービスを向上させることに取り組んでいます。平成26年度は韓国ソウル特別市を訪問し、視察先から得たファンドレイジング分野における日本で実践可能な知見を、広く市民に公開しました。

私を『私たち』へとつなぐ”小さなスイッチ”

公益財団法人日韓文化交流基金による助成のもと、「私たちから社会を描く〜韓国の市民活動・協働視察プロジェクト」を、NPO法人ドネルモとの協働により実施しました。このプロジェクトでは、韓国ソウル特別市を視察訪問し、市民活動の最前線からファンドレイジング分野における知見を得ることができました。それらの知見は「コミュニティ」「お金」「評価」の3つの視点から、韓国独自の社会背景も勘案しつつ、日本で実践可能なかたちへと翻訳し、視察レポート「マウル・マンドゥルギ」や報告会、Webサイト等で広く市民に公開しました。特に希望製作所で学んだ「募金学校」のカリキュラムや、

seed:sで学んだ起業家エコシステム(多様な人材の生態系)のつくり方を、これまで私たちが3年間にわたる現場経験を通して培った寄付集めの知識や技術と結び合わせ、平成27年度に福岡で立ち上げ予定の「ファンドレイジング・スクール(仮)」に活かしていきます。

01 お金 大きな施策としての資金循環と現場で体系化された調達の手法	02 コミュニティ 起業家や支援者、住民同士など、つながりを広く・深くしていく仕組み	03 評価 支援決定の要因となる観点(入口)や事業の成果を測る基準(出口)
--	--	---

【 視察の3つの視点 】

PICK UP! **マウル・マンドゥルギ**

独自に作成したクラウドファンディングサイトを通じて、62名の方から376,000円の支援を受け、視察レポート「マウル・マンドゥルギ(マウルづくり)」を発行しました。多くの写真や図表を用いて解説するだけでなく、「ふくおかでもできるかも!」というテーマで、視察の学びを福岡でどのように実現していくか、アカツキとドネルモがそれぞれ表明しています。特設WebサイトではPDF版が無料でご覧いただけます。

<http://visit.aka-tsuki.org/>



視察メンバーの声

NPOと企業は同じになるのではなく、違いを活かし補完し合う関係を築ける。

自社の中に「企業は非営利活動に対してどのようなお手伝いができるのだろうか」との課題意識があり、韓国視察に参加しました。大企業のCSRによる巨額寄付や、駅の構内で市民の声を募集するソウル市の広告など、国全体としてダイナミックな動きが印象的でした。視察中、アカツキの「韓国の市民活動の盛り上がりは日本の黎明期に似ているかも知れない」という言葉に気づきを得、日本の非営利団体の課題である、資金調達や活動の継続性向上の答えが見つかれば、今後の韓国に対して先輩として伝えていくこともできるのかもしれないと感じました。NPOと企業はどちらも社会課題を解決するためのものと考えており、異質な学びやアイデアにより、互いに補完し合える関係性が築けると思います。



視察訪問先

1 韓国最大の市民シンクタンク 希望製作所

Think & Doタンクとして、より良い社会をつくる代案を想像・事実検証し、ボトムアップ型で政策に大きな影響を与えています。年間予算約4億円の40%は個人からの寄付によります。



2 住民による地域づくりの支援 マウル総合支援センター

平成26年度に視察訪問した「ソンミサン・マウル」に代表されるような、住民主導による自発的な地域づくりモデルを、ソウル市内15地域に移転することに取り組んでいます。



3 青年社会起業家の育成支援 seed:s

これまでに115にのぼる青年社会起業家チームを対象に、創業から投資まで成長段階に合わせた支援プログラムと共同オフィスを提供し、社会起業家のエコシステムを生み出しています。



平成27年度の事業方針

平成27年度は、NPOが行うファンドレイジングの価値やそれを支援するアカツキの役割をさらに明確にするため、福岡における寄付市場及びファンドレイジング事例を調査します。また、ファンドレイジングの成果を「金額」や「寄付者数」といった定量評価の面だけで見るのではなく、寄付者の「心理」と「行動」といったプロセスで生まれる変化に焦点をあてた定性評価も重視し、その必要性を広く社会に提起していきます。

岡本 豊 さん

株式会社からくりもの 代表取締役



決算報告

活動計算書（平成26年4月1日～平成27年3月31日）※概要版

科目		金額 (円)
経常収益	受取会費	237,000
	受取寄付金	333,749
	事業収益	4,793,604
	(1)コンサルティング事業収益	2,029,493
	(2)人材育成・コミュニティ構築事業収益	325,000
	(3)調査研究事業収益	85,216
	その他収益	85,216
経常収益 計	7,804,062	
経常費用	事業費	2,738,792
	給料手当/法定福利費	1,124,890
	諸謝金	16,040
	会議費	441,160
	旅費交通費	332,803
	消耗品費	120,200
	印刷製本費	170,749
	交際費	477,413
	賃借料/水道光熱費	34,238
	通信運搬費	72,000
	研修費	45,042
	新聞図書費	64,000
	諸会費	43,173
	支払手数料/租税公課/雑費	5,680,500
	事業費 計	1,035,155
	管理費	6,715,655
	経常費用 計	1,088,407
	当期経常増減額	1,088,407
	税引前当期正味財産増減額	1,088,407
	法人税、住民税及び事業税	71,000
当期正味財産増減額	1,017,407	
前期繰越正味財産額	1,926,038	
次期繰越正味財産額	2,943,445	

01 サポーター会員受取会費

新たに19名の方がサポーター会員に入会していただき、約11万円増の収入増加となりました。

02 給料手当/法定福利費

コンサルティングや研修では、物品の仕入れや設備投資の費用が発生しないため、事業費の4割以上を占めます。

03 諸謝金

研修やセミナーで関東・九州の講師をゲストにお招きする機会が多く、旅費交通費とともに大きくなっています。

04 交際費

講師や協働団体との関係構築や営業のために、懇親会の参加費や手土産の購入などに使用しています。

05 研修費・新聞図書費

事業と事務局運営の質をともに高め続けるため、積極的に職員の人材育成に投資しています。

06 次期繰越正味財産

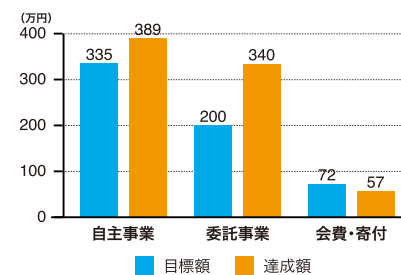
平成28年度に常勤職員1名を新規採用予定のため、人材育成等の費用も含め、その人件費を確保しています。

活動計算書および貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、NPO法人アカツキの収支を正しく示していることを認めます。

監事 鋪田 みどり

より安定した収入基盤を築くことができました

平成26年度の収入は780万円で、目標として掲げていた607万円を大きく上回ることができました。また、収入額の成長率は、平成25年度の517万円に対して150%となり、組織の健全さを維持しながら成長し得る最大と考えられる速度で発展することができました。一方で、行政の委託事業による収入割合が約4割と増加していること、会費・寄付収入が目標を達成できず、総収入の1割未満であることが課題です。また、支出は672万円で、平成27年度に繰り越す正味財産は101万円で、平成25年度までの193万円と合わせて300万円弱となり、資金繰りは問題ありません。

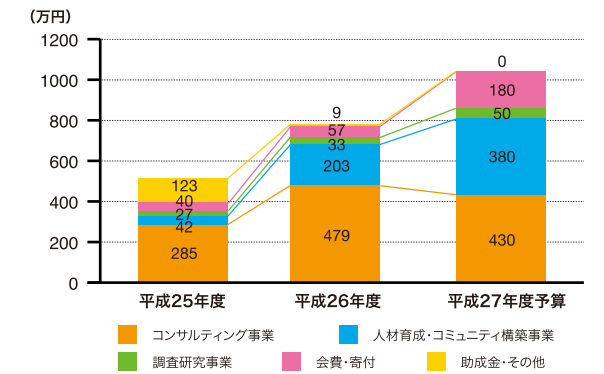


貸借対照表（平成27年3月31日 現在）

資産の部		負債の部		
科目	金額 (円)	科目	金額 (円)	
流動資産	(現金・預金)	流動負債	未払金	405,000
	現金	100,662	前受金	6,000
	普通預金	3,324,783	未払法人税等	71,000
	現金・預金 計	3,425,445	流動負債 計	482,000
	流動資産 合計	3,425,445	負債の部 合計	482,000
正味財産の部				
正味財産		前期繰越正味財産額	1,926,038	
		当期繰越正味財産額	1,017,407	
		正味財産 計	2,943,445	
		正味財産の部 合計	2,943,445	
資産の部 合計	3,425,445	負債・正味財産の部 合計	3,425,445	

平成27年度 収入目標

平成27年度は事業の体系化と展開の速度を上げていくため、職員1名を新たに雇用します。また、職員がより安心して働ける環境を目指して給与額の引き上げを行い、人件費支出を平成26年度の約2倍と見込みます。また、収入は1,040万円を目標とし、自主事業収入の収入割合を増やすこと、会費・寄付収入で180万円を獲得することを目指します。



メディア掲載情報

平成27年1月14日 西日本新聞 朝刊 【生きる 働く 第1部】私がハタラク理由 <5> 『支え合う社会 NPOで』

平成27年3月23日 greenz.jp マイブロSHOWCASE福岡編 with 西日本鉄道 『"成長、してもしなくてもいい場所"をつくる。「NPO法人アカツキ」永田賢介さんが描く、ありのままの自分を持ち寄る社会』

平成27年3月31日 フォーラム福岡 第60号福岡を担うU40群像 各分野で活躍する40歳未満の人材を紹介! 『非営利組織の資金調達をコンサルで強化、寄付文化の定着と市場成長を目指す』

アカツキの仲間たち

フェロー(正会員)

- 池本 桂子 さん / 特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
- 大澤 龍 さん / 認定NPO法人日韓アジア基金・日本
- 小島 理絵 さん / 日本私立大学協会
- 西塔 ともみ さん
- 鈴木 大空 さん / 株式会社LITALICO
- 富永 沙和 さん / エフコープ生活協同組合
- 西本 朗羅 さん / マザーハウス
- 藤見 里紗 さん / NPO法人マドレボニータ
- 宇都 龍志 さん
- 大島 隆 さん / 地域と交通をサポートするネットワークin Kyushu
- 小淵 亮兵 さん / 株式会社ベイクレント・コンサルティング
- 澤口 敬太 さん / 偽百姓〜今日もみんな、おいしくごはん〜
- 多原 真美 さん
- 長廣 百合子 さん / Logista
- 野崎 大雅 さん / アプコグループジャパン株式会社
- 古橋 範朗 さん / 暮らしの間屋

サポーター会員

- | | | | | | | |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|
| 相浦 圭太 さん | 青木 絵美 さん | 松田 美幸 さん | 岡 優子 さん | 影山 知明 さん | 間間 理 さん | 栗田 将行 さん |
| 黒田 美穂 さん | 坂崎 あゆみ さん | 清水 隆哉 さん | 末吉 祥子 さん | 平 由以子 さん | 知足 文隆 さん | 中里 明日香 さん |
| 原田 君子 さん | 福島 優 さん | 藤村 一行 さん | 藤原 一尊 さん | 本田 正之 さん | マクリ マイケル さん | 増永 弘子 さん |
| 松島 弘哉 さん | 宮田 智史 さん | 村田 那菜子 さん | 八尋 さおり さん | 吉武 ゆかり さん | 渡辺 裕子 さん | |

関わり方の提案

「持ち寄って働く、寄り合って暮らす。それぞれの『私たち』に拓かれた社会へ。」このビジョンの言葉そのものが表しているように、目指す社会の実現には理事と職員の力だけでは足りません。まだ見ぬ新しい社会へ、具体的に進む一歩をともにつくりませんか？自由な時間を使い誰でも参加ができる「ボランティア」、専門知識や技術を活かす「プロボノ」、資金というエネルギーを託す「寄付・サポーター会員」、3ヶ月間、週1回で関心のある事業で働きながら学ぶ「インターンシップ」など、様々な関わり方で、「持ち寄って」くださる人を募集しています。まずはメールやFacebookメッセージから、お気軽にご連絡ください。

支援者の声 1

関わる方々の立場や物事の考え方を理解しようとする姿勢に魅力を感じています。民間企業に勤める者として、距離的・時間的制約があり、頻繁には関われませんが、事業が成長するための何かしらのきっかけになればと思い、また、お金を何かを行うための手段として見直したいという思いもあり、少額ながら継続的な寄付で応援しています。



宇都 龍志 さん
会社員

支援者の声 2

アカツキの活動で最も共感するのは、「成長してもしなくてもいい場」があること。遠方の私は日常的に集うことはできませんが、こうした場を大切にしている人々の存在自体を大事にしたいと、報告書作成で協力しています。打ち合わせではメンバー同士の対話が丁寧で、その姿勢がコンサルティング事業にも共通しているのだからと心強く感じています。



小島 理絵 さん
日本私立大学協会

ビジョンの実現に向けて

アカツキはビジョンに向かった確実な歩みを実現していくべく、過大な目標や急激な拡大を目指すのではなく、社会のニーズと適した成長速度を探り、健全で持続的な経営を推進していきます。

平成27年度からの平成29年度までの中期経営計画においては、市民に対して、ファンドレイジングを通して、寄付の機会提供を行うNPOの増加を目標とします。その達成のため、福岡市と北九州市を中心に、主に個人の寄付者を開拓したいNPOを対象としたファンドレイジング・コンサルティングと、その支援と連動した市民への参画機会の提供を行います。また、情報の透明性と社会的信頼が高い水準で認められ、多くの支援者に期待される「認定NPO法人」になることを目指します。

組織体制の長期方針

